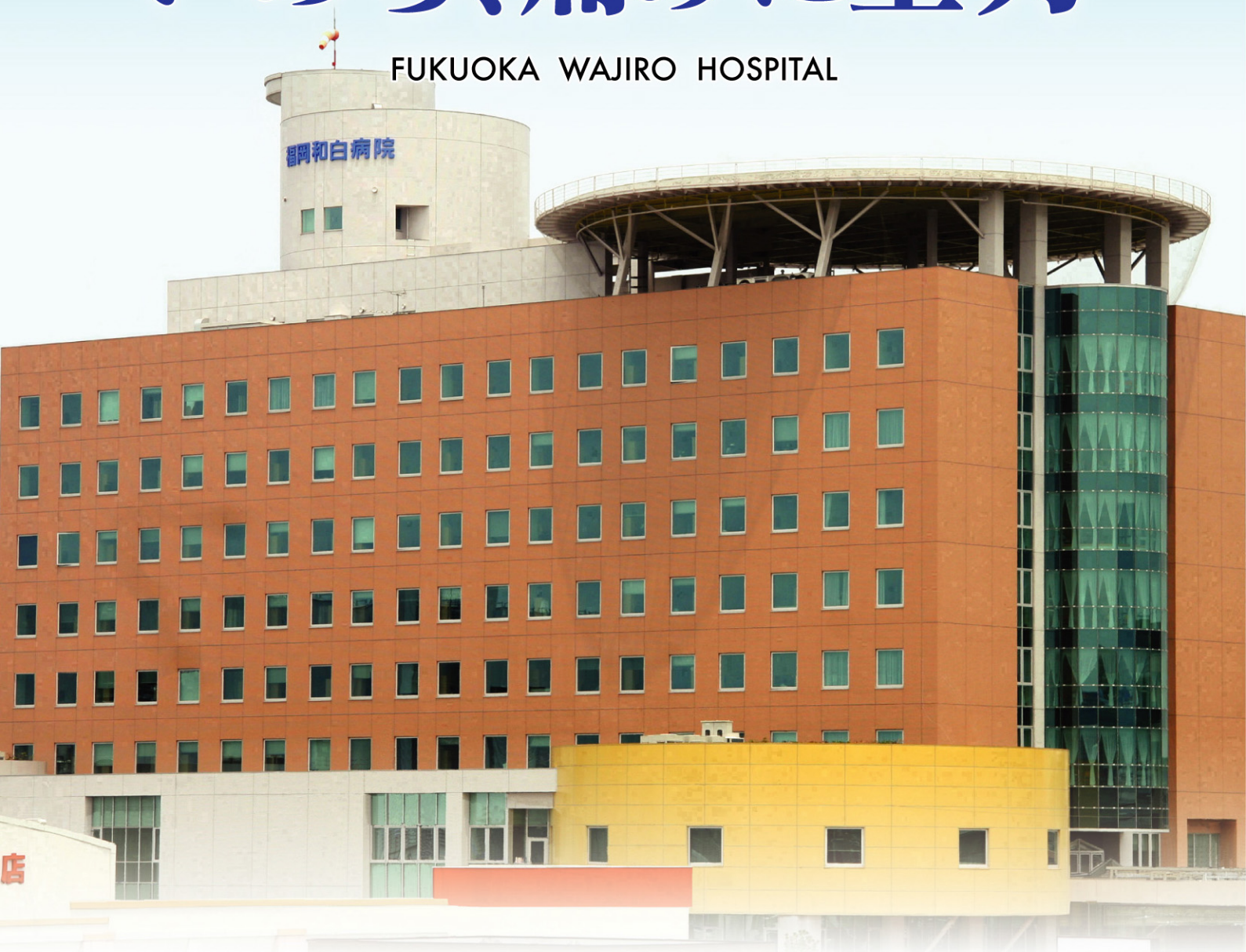


いのち、痛みに全力

FUKUOKA WAJIRO HOSPITAL



地域医療により大きく貢献!!

第10号

平成18年8月

病院機能評価認定 臨床研修病院

医療法人財団 池友会



福岡和白病院

〒811-0213
福岡市東区和白丘2丁目2-75
TEL.092-608-0001
E-mail:info@f-wajiro.biz
http://www.f-wajiro.biz

自己アピール委員会



得意の武道を披露している様子

平成18年5月18日により、合計6回の自己アピール委員会を行いました。村田副院長を中心に、自己紹介を兼ね、約50名の医師が専門や趣味などを話し、スタッフが円滑に業務を行なえるようにコミュニケーションを図りました。

喫茶店「セルツ」



- 営業時間
AM9:00～
PM5:00
- 定休日
日曜・祭日

患者様や付添の方を始め、病院スタッフの方にも利用して頂いています。飲み物だけでなくチャンネルなどの軽食も人気です。是非、御来店下さい。

制服が新しくなりました!

平成18年4月1日より制服が変わりました。今後とも宜しくお願いします!



再来受付

受付事務



総合案内
新患受付
インフォメーション

「クィンテット・レガロ」コンサート



7月9日に当院のPET2階講堂にて約250名の参加で行ないました。クラシックだけでなく映画音楽などもあり、シヤンパンを片手に優雅な時間を過ごしました。

福岡和白病院の基本理念と基本方針

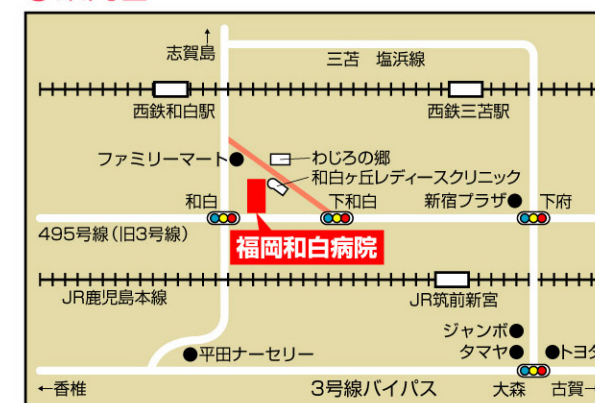
基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

基本方針

1. 高度医療 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。
2. 総合医療 患者様と医療情報を共有し、急性期治療から、早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。
3. 地域医療 地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。

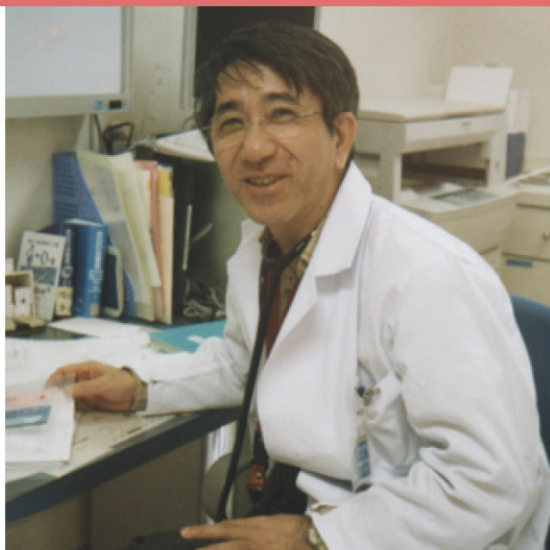
●案内図



医療ネットワークを築き、地域医療の核となる。

収録日 二〇〇六年七月二十五日
取材・構成 満岡 克則

医療法人財団 池友会 福岡和白病院 ハートセンター長 斉藤太郎



最近の統計では悪性新生物について、死因の第2位を占める心疾患（狭心症、心筋梗塞）に対して積極的な治療を行なっているのが、福岡和白病院ハートセンターである。そこでは、循環器科と心臓血管外科が緊密なチームワークをとり、患者様に最善の治療を行なうべく、日々診療を行なっている。特に、循環器科部門においては、血管にカテーテルを通し診断や治療を積極的に行なっている。血管が狭くなった部分をピンポイントで治療できるカテーテル治療は、患者様の侵襲（体力の消耗）が少なく、二泊三日程度の入院で行なうことができる。昨年一年間でのカテーテル治療は385件を数え、福岡市内の医療機関の中で一番多かった。そのハートセンター長として、「地域の信頼を得られる医療」を目指す斉藤太郎医師に、心疾患やカテーテル治療の実態について尋ねた。

「ハートセンター」という言葉をあまり耳にしないのですが、一体どのようなことをされているのですか？

斉藤 当院でのハートセンターとは、循環器科と心臓血管外科とが協力し、患者様の診療にあたる部門を指し、現在、センターには、循環器科医師6名、心臓外科医師4名が勤務しています。もともと、循環器科の医師は、薬を用いての疾患コントロールや、カテーテルという細い管を血管の中に入れて診断・治療を行い、外科医は詰まった血管に別の血管を移植して血流を回復させるバイパス手術などの手術を中心に診療を行なっていました。しかし、患者様によっては両方の医師の関わりが必要であり、患者様へより質の高い医療の提供するために、センターを開設しました。

具体的に、どのような疾患の方が多いのですか？

斉藤 ここでの治療の80%程度は、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心臓病ですね。次いで不整脈、心不全、高血圧などが挙げられます。

虚血性心臓病とは、どのような病気なのでしょうか？

斉藤 心臓と言うのは、一日に10万回以上収縮と拡張を繰り返し、全身に血液を送るポンプの役割をしています。そのため、心臓全体は、筋肉でできています。その心臓に栄養や酸素を送

カテーテル治療は、どのくらいされているのですか？

斉藤 当院ではカテーテルによる診断・治療は確実に増えてきています。昨年は385例行い、先月だけで50例程行ないました。今年は500例を超えると予想しています。昨年の実績は、福岡市内の医療機関で一番多い件数でした。心臓は生命に直結する臓器であるので、適切で迅速な治療で元を取り戻され、笑顔で退院される姿を見ることができなのが、私たちの最大の喜びですね。

ところで、今年の六月に第15回日本心臓血管インターベンション学会（J-SCC）の学術総会という大きな学会の会長を務められたそうですが、学会の成果や最新の治療法は何かありますか？

斉藤 インターベンションとは、カテーテルを使った治療の全般を指す言葉で、それに携わる医師や研究者の学会です。福岡国際会議場をメイン会場に、三日間に渡り、国内外の医師や研究者の方が、3000名以上参加しました。その中で、和白病院で実際にカテーテル治療を行なっている映像を生放送のような形式で会場のスクリーンに映し出し、治療の進め方や操作の方法などを参加者全員で議論し評価するライブを行ないました。和白病院にセンターを立ち上げ、わずか一年余りで、スタッフの知識・技術が多くの方に認められたことに大変な感慨を受けました。また、最新の治療法としては、当院ですでに行なっていますが、薬剤溶出（DES）ステントが挙げられます。これは、金属であるステントの再狭窄を防ぐための薬を塗布したステントです。薬の塗布により、術後の様々な事態に対応できるわけで、カテーテル治療の可能性がまた広がりました。

益々、カテーテル治療は発展しているんですね。そのようなカテーテル治療を斉藤先生が始められるきっかけは何だったのですか？

斉藤 大学卒業後、最初は血液免疫という分野を専攻しました。しかし、研究から、臨床の現場に移ることにになり、「地域が必要とする医療」を考え、当時、遅れていた循環器を選んだのです。その後、昭和57年に日本で初めてカテーテルによる風船治療が紹介され、その優位性を実感しました。当時は、専用の道具も少なく、手探りでスタートでした。その後、経験を重ねながら、熊本で年間800例程の治療を行なうようになり、三年前からは和白病院のハートセンター開設に加わるようになったのです。

っている血管を、冠状動脈と言います。虚血性心臓病は、この血管が動脈硬化のために、狭くなったり、詰まったりした時に起こる病気です。例えば、コレステロールが血管内の壁に付着して、血管を狭くしたり、塞いだりし、一時的に血流が不安定になった場合を狭心症と言い、完全に塞がった場合を心筋梗塞と言います。危険な疾患であるので、その治療には迅速な診断と高い治療技術が必要とされます。

その診断・治療にカテーテルが優れているようですが。

斉藤 カテーテル治療が始まる前は、外科医によるバイパス手術しかなく、長時間を要する手術であったため、患者様への負担も大きいものでした。それが、循環器科医によって患者様の足の付け根や腕の血管から管（カテーテル）を通し、狭くなった心臓の血管を風船（バルーン）を膨らませる風船（バルーン）治療や、ステントレス製の網目状の筒を入れるステント治療などの技術が確立され、患者様への侵襲を非常に少なくすることができるようになりました。当院では、治療の場合は二泊三日の入院で治療される方が多く、検査だけの場合は、日帰りされる方もいらつしやいます。ただ、全てがカテーテルで治療できるかと言うと、狭くなった血管の場所などによっては、バイパス手術は良い場合もありますので、その際の連携もハートセンターに求められます。

ハートセンターの果たす役割や期待は、これからますます大きくなると思いますが、センターの今後の活動について、どのようにお考えでしょうか？

斉藤 和白病院は、地域医療の核にならないといけないと思います。患者様や開業医の皆様の信頼を得て、ネットワークを築くことが大切です。地域の方の健康を開業医の皆様と共に管理し、そして、重篤な病気などが起きた場合に備え、診断や治療の指針というものを築いておく必要があると考えます。福岡という九州最大の人口を抱える地域であることを考えると、虚血性心臓病の対策は、まだまだ遅れているように感じます。カテーテル治療が必要な方は大勢いらつしやるでしょうし、生活習慣病が増加していることを背景に、今後、この疾患は増えてくるでしょう。我々は、開業医の皆様が心臓病を疑った時に、迅速で確かな治療を行なうために、更にハートセンターの内容を充実していかなければならいと考えています。また、新たな取り組みとして、「ドクターカー」というものを七月より始めました。これは、最新医療機器を搭載した高規格救急車で医師が同乗することで、高度治療を施すことができるものです。心電図モニター、除細動器、ABP、人工呼吸器などを装備し、搬送中にも適切な診断と治療を行いながら、高次機能病院へ搬送するものです。今後は、開業医のもとを受診された状態の悪い患者様を救うために、大きな力になると思っています。（ドクターカーの詳細は次号にて）

これからますます増えると思われる心臓病に関して、普段から気をつけることはありますか？

斉藤 これは、ほとんどの病気に該当すると思いますが、早期発見、早期治療が基本だと思います。そのために、普段から自分の健康に気を配って頂くことが必要です。特に、虚血性心臓病は急変することが多いので、その前の段階で病気を発見し、治療を始めることが大切です。我々は「心臓ドック」という新たな心臓に関する検診への取り組みをスタートさせました。幸いにも、和白病院には、「心臓CT」が行なえる64列マルチスライスCTという画期的な診断装置があり、心臓や心臓の血管を立体的に精査することができます。この診断装置によって、症状が起る前、あるいは軽い症状がある方を見つけることができます。今までに、治療した最も若い心筋梗塞の患者様は26歳です。若い世代にも、この病気は増えてきています。「働き盛りの三十代〜四十代の方が突然、亡くなられた」ということを耳にすることもあります。そういう不幸を減らすためには、「胸がおかしい」、「胸が痛い」、「何かおかしい」と感じた時には、是非受けて頂きたい検査ですね。



医療法人財団 池友会 福岡和白病院
ハートセンター長 斉藤 太郎

1948年生まれ・宮崎県えびの市出身・熊本大学医学部卒業
福岡和白病院ハートセンターを全国に通用する循環器センターにすることを目標に、2005年2月より福岡和白病院に勤務。
2006年6月には、日本心血管インターベンション学会総会という海外招待約40名、全国3,000名以上が参加する学会を主催。また、カテーテル治療において、パルスインフュージョン血栓溶解療法（PIT）や4フレンチカテーテルを独自開発し、現在、全国的にも広く臨床の現場で使用されている。
趣味は、音楽鑑賞。クラシックやジャズなど幅広く聴かれる。

入職医師紹介！24時間いのちの現場で奮闘します！

福岡和白病院に新たに30名の医師を迎えることができました。
今まで以上に充実したスタッフで、患者様のために全力を尽くしますので、宜しくお願いします。



内科・総合診療部医師

野田 智子 (佐賀医科大学卒)

本年4月より、入職し、内科外来にて、高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病や診療科の判断がつきにくい訴えの患者様の診察をさせて頂いています。出身は、粕屋郡宇美町で、大学時代を佐賀で過ごしました。どうぞ宜しくお願いします。



内科医師

黒岩亜由子 (宮崎大卒)

2年間の臨床研修を終え、4月より当院内科の専修医として勤務しております。和白病院を受診された患者様がハッピーになれるよう、日々研鑽したいと思ひます。



内科医師

榎屋 愛 (福岡大卒)

4月より和白病院で内科を担当しています。地域の方の健康を守るように頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。



内科医師

東 喬太
(兵庫医科大学卒)

平成18年6月より、赴任致しました。

消化器疾患だけでなく、色々な内科疾患も診させていただきます。宜しくお願い致します。



内科医師

廣重 嘉一郎
(九州大学卒)

肝臓病の臨床と研究に従事して今日まで。

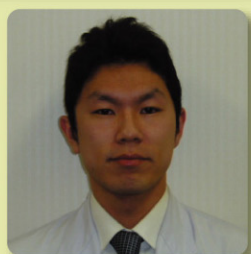
私の医療理念『利己を捨て相手の身になって考える利他の精神』のもと、今回医師の原点に戻り、一医師として自己の医療の理念を貫き、利他行に専念する所存です。



内科部長

福田 耕一
(宮崎医科大学卒)

総合診療科、呼吸器科、救急科をベースに総合診療ができるように研鑽を積んできました。患者様はその生活を含めて、全身を診てあげたいと考えています。患者様の言葉にしっかりと耳を傾け、質の高い技能、知識をもって治療にあたるように心掛けています。



整形外科医師

田中 基貴 (愛知医科大学卒)

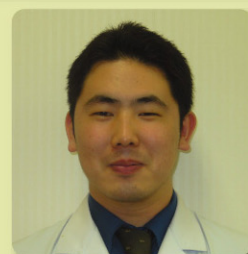
研修医を終了し、整形外科医としてスタートすることになりました。当院は急性期外傷が非常に多く整形外科スタッフも充実しており、入院後早期に手術が可能です。地域の方に役立つ整形外科医になれるように日々精進していきたいと思ひます。



整形外科医師

佐藤 元紀 (山口大卒)

当院では、外傷、関節鏡手術、脊椎手術、人工関節と幅広く診療を行なっています。地域の皆様に貢献できるように精一杯努力していきます。



外科医師

徳永 裕貴 (山口大卒)

4月から、和白病院の外科で働かせて頂いています。3月までは山口大学で研修していましたが、地元に戻ってくることができたこと、また、活発な病院で働くことができることを非常に嬉しく思っています。まだまだ未熟者ですが、皆様宜しくお願い致します。



心臓血管外科医師

高松 正憲
(佐賀医科大学卒)

平成18年5月より、和白病院で勤務しています。今まで、福岡、佐賀、長崎、鹿児島など九州各地で心臓や血管の手術に携わってきました。今後も地域医療に貢献するため、日々精進していきたいと思ひます。



神経内科部長

藤野 泰祐
(福岡大学卒)

平成18年4月より神経内科に赴任致しました。これまで10年以上様々な急性期病院で勤務した経験を生かし地域医療に貢献したいと思いますのでよろしくお願い致します。



ER医師

廣郡 聖妙
(佐賀医科大学卒)

今までにいくつかの救急病院、救命センター、大学病院等で修練をついで4月より和白病院で勤務しています。

現在、育児中であり、その経験を日々の診療に生かし、患者様の気持ちを大切にしつつ、生命の危険から守れるよう努力します。



放射線科医師

叶 篤浩 (大分大卒)

この4月から、こちらの病院で放射線科医として勤務しています。仕事の内容は主に画像診断です。日々の診療において画像診断の役割が大きくなっています。正確な診断により適切な治療に結びつくよう日々診療に謹んでいます。



眼科医師

淵上 あき (広島大卒)

白内障の日帰り手術を行なっております。どんなに小さなことでもお気軽に御相談下さい。患者様のより良い生活のために頑張りますので、宜しくお願い致します。



神経内科医師

福原 康介 (福岡大卒)

本年4月より、神経内科に赴任致しました。頭痛、めまいのプライマリーケアから、脳梗塞、髄膜炎などの急性期疾患まで診察させて頂いています。全力で頑張りますので宜しくお願いします。

健康相談室

平成18年4月からの
診療報酬の改定について



Q

病院での支払いは、どのような仕組みになっているのですか？



病院で受ける診察や検査などの全ての医療行為には、それぞれ点数が定められています。例えば、初診料は270点、心電図は150点などです。

1点当たり10円と定められていますので、ある診療行為を100点とすると、1,000円の診療費がかかることになります。そのうち患者様が実際に窓口で支払う金額は、お持ちの保険証の種類による割合で計算されます。

多くは、1割から3割の負担となります。

そのため、毎月患者様には保険証の確認をさせて頂いています。また、窓口での患者負担額を差し引いた残りの診療費は、毎月各保険者に病院から請求をしています。



Q

診療報酬改定されると、何が変わるのですか？



医療機関において、保険診療が行われた場合の診療費を「診療報酬」といいます。これを算出するために、各診療行為にはそれぞれ点数が定められていますが、およそ2年に一度の割合で点数の見直しが行われます。これを診療報酬改定といい、医療技術の難易度の変化や物価上昇率などを考慮して行われるものです。そのため、前回と同じ診療内容であっても、窓口での支払い金額が変わる場合があります。

不明な点がございましたら、窓口にてお尋ね下さい。

臨床研修医の紹介

臨床研修医とは…

医師国家試験合格後2年間の研修期間中の医師を言います。



広島大卒
池田 尚子

ご迷惑お掛けしますが、地域の皆様に信頼して頂ける医師になるように努力していきます。宜しくお願いします。



大分大卒
石井 稔浩

活気溢れる和白病院にきて3ヶ月となります。学生時代は野球部で、診療においても「声」と「元気」を出して頑張りたいと思います。



藤田保健衛生大卒
稲田 望

入職して3ヶ月が過ぎました。忙しい毎日ですが、学生時代に水泳で鍛えた気力と体力で、地域の皆様に貢献できるよう頑張ります。



熊本大卒
沖田 英樹

6年振りに福岡に戻りまして、病院周辺の变化に驚いています。地域の皆様方の健康づくりの一助になれば幸いです。



佐賀大卒
柿川 真紀

毎日が勉強の日々ですが、少しずつでも成長していけるように頑張ります。宜しくお願い致します。



広島大卒
角本 孝介

病院理念「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」に恥じぬ医師になれるように日々努力していきたいと思っています。



久留米大卒
蒲池 健一

毎日、充実した日々を過ごさせて頂いています。一生懸命頑張りますので、宜しくお願い致します。



帝京大卒
蒲池 良平

自分の手技の一つ一つが患者様を助けると考えると緊張せずにはいられません。医療人として自覚を持って努力します。



福岡大卒
北崎 理沙

いつも明るく、元気で、笑顔をモットーに日々頑張っています。どうぞよろしくお願いします。



川崎医科大学卒
倉員 正光

福岡県で育ち、岡山で医学を学び、故郷に研修医として帰ってきました。患者様のために頑張ります。よろしくお願いします。



宮崎大卒
高橋 俊介

宮崎は高鍋町の出身です。医療側のみでなく患者様側の視点にも立つことができる医療を行なえればと考えています。



久留米大卒
瀧本 浩樹

毎日が真剣勝負の中、患者様と一緒に勉強させて頂いています。毎日が新しい発見で、とまどう場面も多いですが、患者様の一助になるために頑張る所存です。



香川大卒
野田 奈穂子

患者様との距離が近い医師を目指して頑張ります。よろしくお願いします。



佐賀大卒
藤村 陽都

憧れの職業に就くことが出来、身の引き締まる思いです。至らない点も多々あるとは思いますが、御指導の程、宜しくお願いします。



佐賀大卒
三枝 さや子

徐々に新しい環境にも慣れて、忙しくも充実した日々を過ごしております。まだまだ未熟者ですが、宜しくお願いします。



愛知医科大学卒
光武 慎一郎

患者様の立場に立ち、共に医療を行なえるような医師・患者関係を築いていきたいと考えております。



大分大卒
吉田 卓史

将来は救急医療に従事したいと考えています。学生時代、バスケの県代表として鍛えた体力・気力を糧に今後も頑張っていきます。